

経営比較分析表（令和6年度決算）

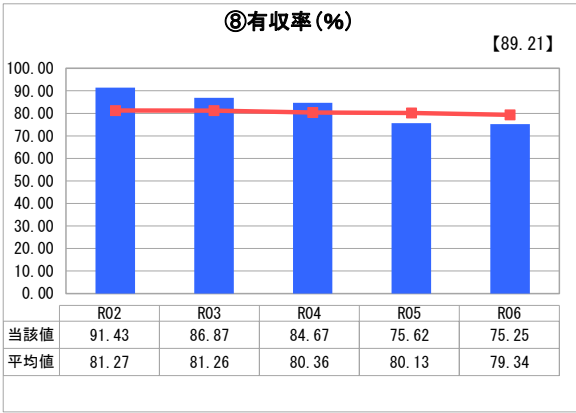
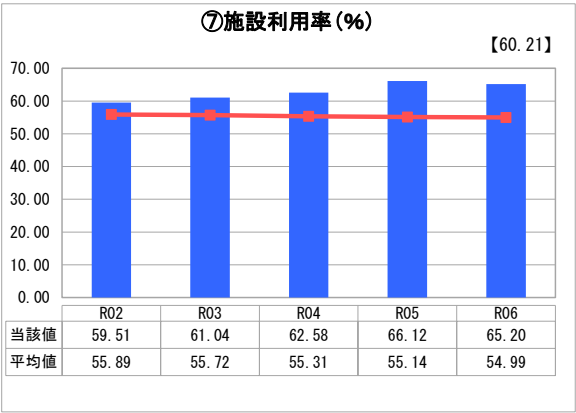
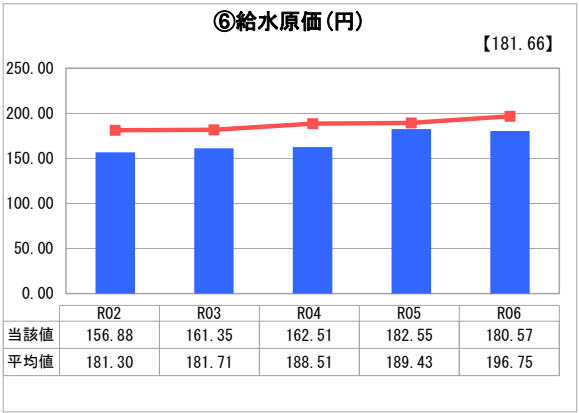
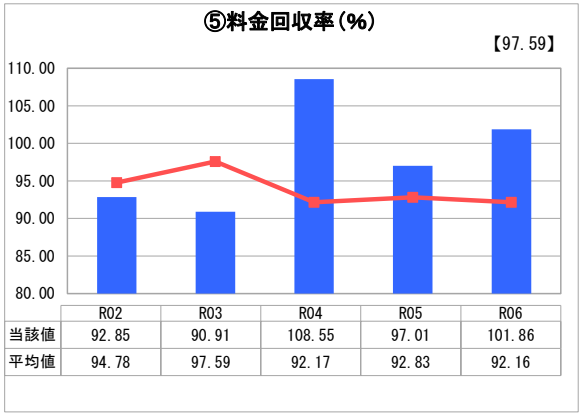
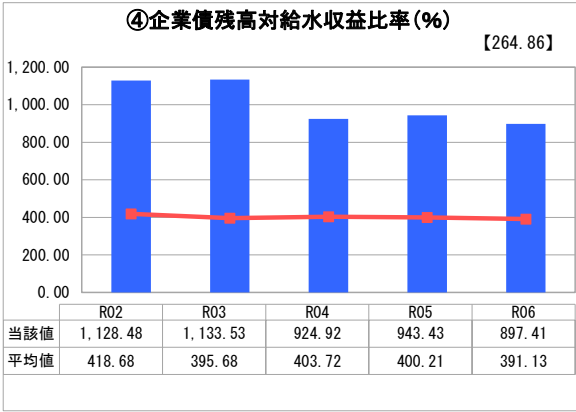
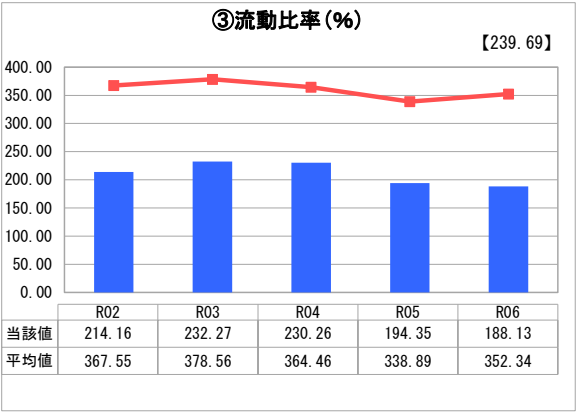
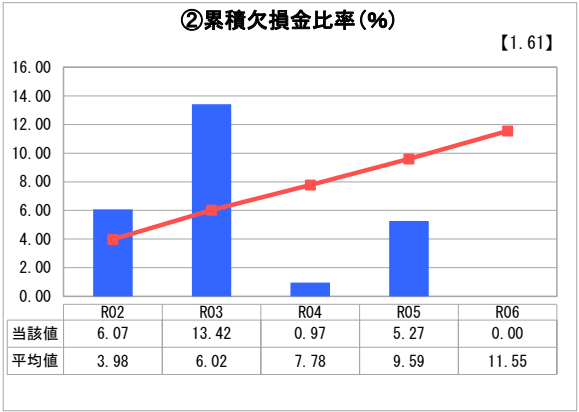
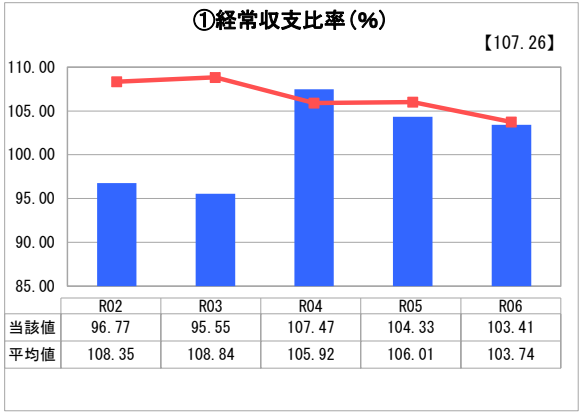
石川県 中能登町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	62.55	99.27	3,520	

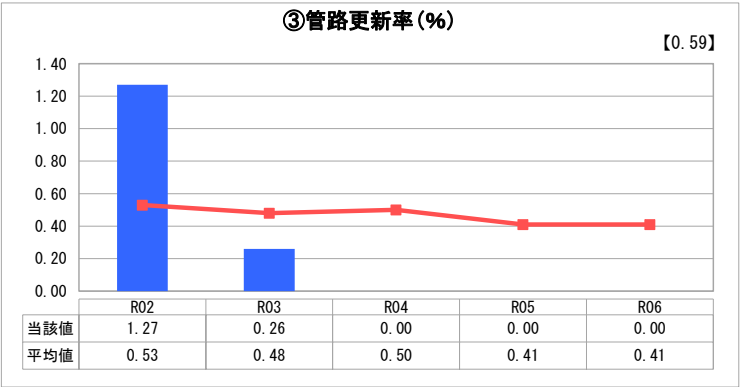
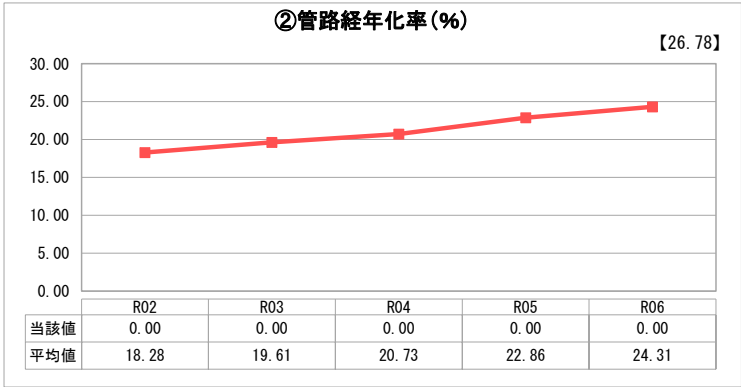
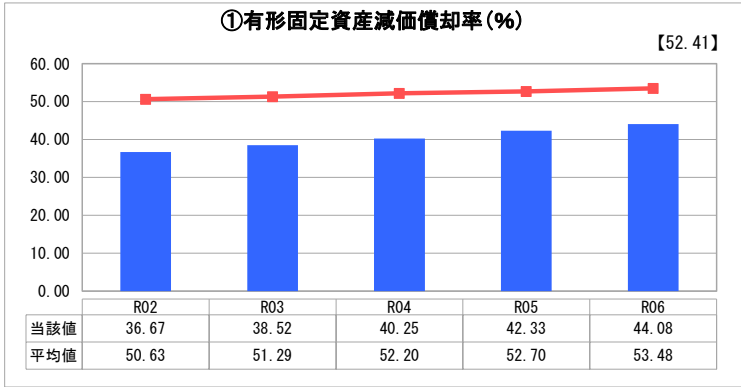
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,529	89.45	184.78
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
16,272	34.86	466.78

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
人口減少や物価高騰の影響による節水等が要因で給水収益は減少傾向にある。減価償却費は前年度に比べて、やや減少した。当該指標は100%を超えたものの類似団体や全国的にみても低い水準となっている。令和4年度に料金改定を行ったものの給水収益が思うように見込めなかったのも要因の一つである。今後も引き続き、維持管理費や減価償却費の抑制に取り組んでいくこととする。

②累積欠損金比率
今年度は災害復旧事業に人員配置を含めて重点を置いたため、事業費は減少となった。また、料金改定や災害復旧にかかる特別利益により、一時的に事業収益が増加した結果、純利益が発生し、累積欠損金は皆減となった。今後も経常収支比率も注視しながら経営の安定化に努めていきたい。

③流動比率
類似団体に比べて大幅に小さい値で推移している。前年度に比べて、企業債残高は3.3%減少したが、支払能力を高めるための経営改善を図っていく必要があると考えている。

⑤料金回収率
当該指標は100%を上回っており、事業に係る費用を給水収益のみで賄うことが出来ている。今後は給水人口の減少に伴い給水収益も減少すると見込まれるため、維持管理費等の削減に努める必要がある。

⑦施設利用率
類似団体や全国的に見ても、若干ではあるが高い水準となっているが、今後は人口減少に伴い、給水収益が見込めなくなるのが顕著であり、今後の状況を見守りながら施設の維持管理を行っていかなければならない。

⑧有収率
施設の稼働状況が収益にあまり反映されていない状況である。水道施設や給水装置を通して給水される水量が収益に結びついていないため、漏水やメーター器等の不良について確認し、早急に対応をしていかなければならない。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
資産の老朽化度合は類似団体や全国的に比較しても低い水準となっており、計画的に老朽管更新事業を進めてきた結果である。しかし、年々、割合が増加傾向となっているため、今後も計画的な投資計画を行いながら、安定した経営ができるよう事業を進めていかなければならない。

②管路経年比率
法定耐用年数を経過した管路はないものの、資産の老朽化度合は微増しているため、今後も計画的な更新事業が必要となってくる。

③管路更新率
老朽管更新事業を計画的に進めているものの、更新等の財源確保や経営に与える影響は厳しくなる見通しである。これらを踏まえながら適切な管路更新が必要となる。

全体総括

人口減少等に伴う給水収益の減少が顕著となる状況であるため、施設の維持管理費や減価償却費等の抑制に取り組むとともに、安定した経営を行っていく必要がある。

また、今後は事業経営への負担を踏まえながら、災害で被災した管路の早急な復旧や急所施設の耐震化などを計画的に進め、経営基盤の強化を図ることが必要である。